



一般社団法人

全国高等学校PTA連合会

一般社団法人全国高等学校PTA連合会

 (連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757
 発行人 田名部 智之 URL <http://www.zenkoupren.org/> eメール info@zenkoupren.org


本年度も各単位PTA並びに都道府県、各地区のPTA活動にご参加、ご協力頂きまして誠に有難うございます。この全国高P連会報は本号にて第101号となりました。途絶えることなく会報を発行できておりますことに合わせて感謝申し上げます。

私は今期より文部科学大臣より中央教育審議会委員(以下、中教審)に任命され、国の教育行政に直接意見を述べる立場を頂戴しました。その役割は私立・公立高校の無償化、首都圏と地方の格差、大学受験制度、奨学金制度、コミュニケーション、先生方の働き方改革など、多岐に渡りながらも早急に解決していかなければならない重要な課題に対し、高等学校のPTAを代表して意見や想いを反映できる役割であり貴重なものです。

会員の皆様には私の任期中と限られた時間とはなりますが大いに活用頂きたいと思えます。

中教審のメンバーとなつて感じたのは、分野の専門家が忙しい中、月に2〜3度集まり真剣に議論を重ね、国や行政政治家もそれらに真剣に応える会議であり、子ども達の未来を思い、制度、ルールづくりが行われる仕組みで、中教審からの意見がダイレクトに法律化されていることでした。

最近では個人の意見や考えを主張しやすく、SNSを使って広く賛同者を獲得出来たり、やり方によっては世論を動かすほどのインパクトを与えることも出来るようになりました。しかし、法律を変えることは稀であり、歴史と実績のあるPTAという組織

がまだまだ影響力があるという事です。PTAに対し心無い発言をする方もいるでしょうが、自信と誇りをもって楽しく活動してください。

一人ひとり、そして単位PTAは小さなチカラですが、県、地区、全国PTAの想いを結集すると物凄いチカラとなります。全国の学校・PTA・生徒達が益々活動(行動)しやすい環境を整え、導いていく事こそ、スケールメリットを持つ我々全国組織としての責務だと思っております。

皆が参加しやすく、皆が幸せになれる新たなPTAの歴史を共に築いてまいりましょう。

今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

ご挨拶

一般社団法人 全国高等学校PTA連合会 会長 田名部 智之

今号の主な内容

会長挨拶	1 頁
第74回全国高等学校PTA連合会大会三重大会報告	2～5 頁
地区トピックス	6～14 頁
北海道地区／東北地区／関東地区／北信越地区／東海地区／近畿地区／中国四国地区／九州地区	
第75回全国高等学校PTA連合会大会大分大会(ご案内)	15 頁
賠償責任補償制度のお知らせ	16 頁



全体会 会場



第74回全国高等学校PTA連合会大会

2025三重大会を振り返って

令和7年8月21日(木)
22日(金)の2日間にお
たり、第74回全国高等
学校PTA連合会大会
2025三重大会が津市

産業・スポーツセンタ
において開催されまし
た。久しぶりに事実上1
か所での開催となり、全
国から5500名を超え

る参加申込をいただき
ました。なお、今大会は
オンラインについては、
LIVE配信を行わず開
催後のアーカイブ配信の
みとさせていただきます
が、240校から申込
をいただき、従来を大き
く上回る会員の皆さまに
ご覧いただきました。

大会テーマは、「出会
いはじまる常若のくに
〜『集い、想い、継ぐ』
三つの重なる明日への
力〜」としました。サ
ブテーマに「三重」をあ
しらいつつ、時代や社
会、そしてPTA自体も
大きく変容していく中
で、三重の地に会員が集
まり、知恵をしぼり、将
来を担う子どもたちに
明るい希望を託すこと
を祈念する大会とし
たと考えました。



小野喜照 大会実行委員長

大会1日目 8月21日(木)
「全体会(開会式・表彰
式)」13時30分〜14時25分
会場・日硝ハイウエー
アリーナ・メインア
リーナ・サブアリー
ナ(LIVE配信)
四日市商業高校ギタ
マンドリン部歓迎アトラ
クション演奏の後、13
時30分に全体会(開会
式・表彰式)で大会が幕
を開けました。小野喜照
大会実行委員長の開会
挨拶に続いて、大会会長
である田名部全国高P連
会長から「コロナ禍以降
PTAに対してネガティブ
な状況もあるが、ここ

集まった皆さんは
様々な領域で活躍
する高校生を応援
している。PTA
が不要なはずがな
い。全国190万
人の会員が団結し
しっかりと子ども
たちを支えていき
たい」と式辞があ
りました。その後
賓の皆さんを代表
して武部新文部科
学副大臣、一見勝
之三重県知事、前
葉泰幸津市長から



武部新 文部科学副大臣



田名部智之 全国高P連会長



全国高P連表彰



前葉泰幸 津市長



一見勝之 三重県知事

▶大会ポスター



「あなただはどう考えてるの?」と尋ねてあげて子どもに主体性を育む(子どもの言いなりになるということではない)。赤ちゃん

【分科会】8月21日(木)
14時45分～16時45分
全体会終了後、4会場

祝辞をいただきました。表彰式では、優良PTA文部科学大臣表彰27団体、続いて、全国高P連会長表彰(個人73名、団体78団体、役員42名)が行われ、松下妙子全国高P連前副会長が受賞者を代表して謝辞を述べられました。そして最後に昨年度大会主管の茨城県高等学校PTA連合会及び板倉哲男実行委員長に特別感謝状が贈られました。

第1分科会(メッセウイングNHW 展示場A)
参加者945名
領域 子育て・親育て
テーマ 「子育て、そして親育ち」～言葉の力

に分かれて分科会を開催しました。今回は会場の都合により、分科会でワークショップやグループディスカッション等直接の交流や意見交換の場が設定できませんでしたが、各分科会講演と質疑応答、パネルディスカッション等行う中で参加者も参加できる工夫をしてもらいました。

を磨き、子どもの心の声を聴こう

講演Ⅰ 「子どもの人権」

講師・田部眞樹子さん
(三重県子どもNPOサポートセンター理事長)

子どもの人権に長く取り組み組んできた経験から、子どもと親との関係づくりに問題を指摘され、親として大切にしていかなければならないことを提示してもらいました。子どもたちは「きちんと話を聞いてもらえない」、「意思を確認されていない」、「意見を聞かれていない」といった不満を感じている。「意見表出」ができる人がしていくことが大切。「自我を放棄した良い子」ではダメ。

ん時の愛着形成が極めて大切で、そのことにより「他者のことを考えることができる」(人々を人たらしめるもの)ということに繋がっていきま

講演Ⅱ 「想いを繋げるコミュニケーション」

講師・岩崎由純さん(トレーナーズスクエア株式会社 代表取締役社長)

ペップトークⅡ「他者の心を最適化する言葉がけ」。短くて、分かりやすく、肯定的な言葉を使い、人の魂を揺さぶり、その気にさせるトーク。WBCでの大谷翔平選手の「憧れるのをやめましょう」が良い例!難しい↓やりがいがある、頑固↓信念があつてぶれない、苦手なこと↓できたらすごいこと、など「とらえ方変換」

負けるな↓勝つことだけ考えていきましよう、遅刻するな↓時間を守ろう、「してほしい変換」

等、流ちょうで雄弁な語りもあり気づきの多い時間となりました。

第2分科会(メッセウイングNHW 展示場C)
参加者963名

領域 学校・教育
テーマ 実力発揮のコツ

～無名公立校2校を甲子園に導いた元監督が伝授!～

基調講演・ミニディスカッション

「実力発揮のコツ」
講師・松葉健司さん(次世代リーダー育成会社 Human Freeman 代表)

基調講演では、実力発揮Ⅱ実力(100%)／心の抵抗×身体

の抵抗(良い状態Ⅱ1)という実力発揮の公式が示されました。今回は時間の都合もあり、「心の抵抗をなくす方法」を中心にお話をいただきました。心の抵抗をなくすⅡ心の成長を促すために、知性(分かる)↓感情(楽しい)↓意欲(知りたい)のローテーションが大切であること、また、心のバ

ランスⅡ受信と発信のバランスをとること、そして、意識の方向をはっきりさせ集中することが、能力アップにつながるが、一層の成長へとつながることが、第2分科会の責任者でもある四日市高校の諸岡校長先生をフル活用した実験・実演を交えて楽しく語られました。ミニパネルディスカッションは「学校で育みたい力」をテーマのもと、講師もアドバイザーに迎えて元高校PTA会長、講師松葉さんの教え子で現在県立学校野球部顧問の教諭、高校卒業したての大学生の3名のパネリストと意見交換がなされ、安心して挑戦できる環境や大人がその姿で示すことが重要であること等が紹介されました。

第3分科会(日硝ハイウエアリーナ メインアリーナ)
参加者2046名

領域 進路・キャリア
テーマ AI時代におけるWell-Beingなキャリアデザイン



第3分科会 パネルディスカッション

「青春期における感情・感動体験の重要性」
基調講演・パネルディスカッション

「AI時代におけるWell-Beingなキャリアデザイン」～青春期における感情・感動体験の重要性～
講師…國友尚さん
(アソビビジョン株式会社代表取締役)

講演では、Well-Being
Ⅱ「身体的・精神的・社会的に良好な状態」と紹介され、参加者全員へのWell-Being度簡易測定を交えて現代のAI時代での生き方へのヒントが示されました。また、国際的な調査によると、日本の子どもは勉強はできるが自立や社会的責任という面では極めて意識が低

く、大人も熱意をもって仕事をしていないといった結果に対して、学び方や生き方への考え方のヒントもいただきました。子どもに自立と熱意を育むための一提案として、感想文を読むだけでなく、日本が得意とする映像・音楽・アニメ・ゲーム・テーマパーク等の分野にも拡大すると子どもたちの感情を引き出せるのではないかと提案がありました。最後に、子どもも大人も「ココロ、オドルほうで」というろんなことに挑戦し感動のある生き方を、としめくられました。

伊勢丹の北川支店長

レモンさんは佐賀大会から更にパワーアップ！参加者の皆様はヒーローヒロイン、一般の会員の皆さんをいかに巻き込むかが課題ですが、「楽しい！」「そんなPTAを作ればいい！」とシンプルに言うてもらいました。「PTAは親塾」「人材の宝庫」と断言するレモンさんは、「否定はしない」、「but andに」、つまり「でもねえ」を「そしたら」に、

んだ時間となりました。

第4分科会（日硝ハイウエーアリーナ サブアリーナ）
参加者1443名

領域 PTA活動

テーマ Let's PTAI

これからのPTA活動を考える

基調講演・ミニディスカッション

聞かせて！レモンさん！『持続可能なハッピーPTA！』
講師…レモンさん（山本シユウさん）
一般社団法人オセツカイダー代表（ラジオDJ）

レモンさんは佐賀大会から更にパワーアップ！参加者の皆様はヒーローヒロイン、一般の会員の皆さんをいかに巻き込むかが課題ですが、「楽しい！」「そんなPTAを作ればいい！」とシンプルに言うてもらいました。「PTAは親塾」「人材の宝庫」と断言するレモンさんは、「否定はしない」、「but andに」、つまり「でもねえ」を「そしたら」に、

「WhyをHowに」、つまり「なんでできない」を「どうしたらできる」等を推奨し、そのためには楽しいPTAを作ると決める「覚悟」が必要で、「私得力（しとくりよく）」「除身力（よけみりょく）」など独特の処世術を伝授してもらいました。PTAには5つの得（徳）「1情報 2会話 3友人 4感動 5愛」があり、人間力がアップします。

講演後にミニディスカッションがあり、会場からの質問にレモンさんに回答してもらいました。その時間も含めてレモンさんのパワーと人間愛に圧倒される2時間でした。

大会2日目 8月22日金



中島伸子 氏による記念講演

今回は1会場での開催で、初日に開会式・表彰式を実施できたため、少し時間に余裕をみて、9時30分から「高校生レストラン」で有名な相可高校食物調理科のアトラクション映像（同校放送部製作）放映の後、10時から井村屋株式会社中島伸子会長による記念講演が90分間行われました。「尊厳は明日の力」を壁を開ける手中の鍵」と題し、

自らの波乱万丈の体験に基づく人生、井村屋でのアルバイト入社から経営トップに立つまでの体験、トップとして大切にしていること、そして最後に子育ての中での体験談など入念に準備をいただいた講演で、様々な示唆に富むお話をいただきました。

記念講演後には閉会式が行われ、大会旗が大阪府の和田実行委員長へ引き継がれました。

今回は多くの出会いや学びがあったことに加え、1か所開催であったこと、また、多くの高校生も物産販売等で参加してくれたこと等もあり、「賑わい、盛り上がり（熱量）」を感じられる大会となりました。参加いただいた皆様に厚く感謝を申し上げます。来年は別府の地でまたお会いしましょう！

大分県（次期開催地）挨拶



キッチンカーの様子



物産販売（相可高校）



地区トピックス

北海道地区

北海道高等学校PTA連合会

くポプラが丘で

遅しく育みあう函中生く

1 はじめに

PTA加盟校、242校を有し、広域分散に特色をもつ北海道において、学校・家庭・地域の結びつきはとても重要であり、互いに良さを分かち合いながら、各学校は地域づくりに貢献するとともに、特色ある学校づくりに取り組んでいます。今回は道南に位置して、創立130周年を迎えた歴史と伝統を誇る函館中部高校を紹介いたします。「高きを望んで止ざる向上心、大地にしっかりと根をはる生命力、逞しい成長力」を表す函中スピリット「白楊魂」は建学の精神の象徴となっています。

2 特色あるPTA活動

(1) 4月8日(火) 父母と教師の会入会式

入学式が終了後、会場にて、新入生保護者の父母と教師の入会式が行われました。冒頭で旧会長より、活動の重要性や

やりがいなどが熱く語られ、積極的な参加を呼びかけました。

(2) 4月26日(土) 父母と教師の会 各委員会・総会

本校の父母と教師の会は、学級委員会、母の会委員会、広報委員会組織され、これらとは別に親父の会や母の会委員会のOGで結成される古母の会があります。この日は、学級・母の会・広報委員会がそれぞれ開催され、総会において今年度の事業計画や会計・行事等に関する説明が行われました。また、新しい役員も選出され、新会長が決意と抱負を述べました。

(3) 5月9日(金) 大沼ロードレース

伝統的に行われているロードレース。グリーンピア大沼の公園内を男子8.2km、女子6.1kmを全校生徒が走破します。毎年、父母と教師の

会各委員会がチェックポイントでの健康観察や励ましの声かけ、活動の様子の記録などを行い、親父の会においては給水所を設営し、冷たい水と常温の水を用意し、走っている生徒にどちらがいいか聞きながら、走る邪魔にならないよう水を渡す奮闘ぶりを見せてくれました。

(4) 6月7日(土) ～ 8日(日) 第74回北海道高等学校PTA連合会大会 道南大会

「新たな未来を創る子どもたちを支え育むために」今こそ求められるPTAの役割と学校・家庭・地域とのつながりについて、異国情緒あふれる街並み、美しい夜景が魅力の函館で大いに語り合いました。二日目・三日目は生徒達がクラス展示や部活動展示等するなか、学級委員会は浴衣の着付け、母の会は函館中部高校オリジナルグッズの販売、広報委員会はカメラを片手にひたすら活

地域と共に」という演台でご講演をいただきました。二日目は、「PTA活動」「進路指導」「生徒指導」「地域連携」のテーマごと函館市内4つの会場にて分科会を実施し、講話に基づいた研究協議が活発に行われ、盛会の内に終了しました。

▶北海道高P連道南大会で講演をする 丸谷智保氏



(5) 7月4日(金) ～ 6日(日) 白楊祭(学校祭)

初日は、全15クラスのパフォーマンス発表が千代台陸上競技場を貸し切って行われ、約250名もの保護者が観覧に訪れました。二日目・三日目は生徒達がクラス展示や部活動展示等するなか、学級委員会は浴衣の着付け、母の会は函館中部高校オリジナルグッズの販売、広報委員会はカメラを片手にひたすら活

動の記録、親父の会は野菜・ジュース・焼き物の販売等、生徒に負けず劣らず大いなる賑わいを見せていました。

▶大いに盛り上がりを見せた白楊祭での物販の様子



(6) 10月18日(土) 創立130周年記念事業

函館中部高校は創立130周年を迎え、校庭のポプラ(白楊)の葉が色づき始めたころ、記念式典が体育館において関係者約900名を集め挙行されました。この記念事業に当たっては、2年前より「協賛会」が設立され、同窓会・父母と教師の会及び学校の万全な協力体制のもと準備を進めてきました。会場設営・受付・本校オリジナルグッズ販売等のお手伝いを行い、式典前の函館市長大泉潤様の記念講演、式典

後の祝賀会を含め恙なく終えることができました。

(7) 11月29日(土) 高校生と語るつどい

函館中部高校を会場にPTA道南支部が主催して行われました。テーマは「これから大学進学へ向かう高校生と保護者の本音の語り」。市内5校から生徒23名とPTA関係者22名が参加し、ワールドカフェ方式で行われ、学校間の垣根を越えて大学進学について本音で語り合った。

▶他校の保護者と本音で語り合った「つどい」



(8) 3月1日(日) 卒業祝賀会

卒業生の前途洋々たる門出を祝う場として、父母と教師の会が中心となつて祝賀会を予定しています。

「見つけよう 個を生かす時代のPTA活動」一緒に探しませんか？多様性の時代にできること」のテーマのもと、令和7年7月1日（火）・2日（水）、仙台サンプラザホテル・仙台サンプラザホールを会場に第74回東北地区高等学校PTA連合会仙台大会が開催されました。県外から参加者573名、宮城県内から役員含めて507名、全体で1,080名が参加しました。

開会行事



地区トピックス

東北地区

宮城県高等学校PTA連合会

令和7年度東北地区高等学校PTA連合会『仙台大会』報告

大会に先立ち、前日7月1日（火）夕方には情報交換会（レセプション）が開催され、東北各県から428名の参加者が集まり、それぞれのPTA活動への思いを語り合い、大いに交流を深めました。恒例の鏡割りの他、宮城大学すずめ踊りサー

クル「娘すずめ。」によるすずめ踊りがアトラクションとして披露され、参加者を大いに楽しませてくれました。

大会当日は、オープニングとして宮城県大河原産業高等学校ギター部による華やかな演奏で幕を開け、続く開会行事では、

大会実行委員長の

瀧口愛美仙塩支部長の歓迎のことば、大会会長の稲垣美樹宮城県高P連会長、田名部智之全国高P連会長の挨拶に続き、東

北地区高P連表彰（表彰状・感謝状48名、広報紙コンクール表彰18校）が行われました。

次の基調講演は、小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトで知られる現オーストラリア国立大学教授川口淳一郎氏から、『やれる理由こそが着想を生む』『はやぶさ』

「はやぶさ2」を完遂させた力」と題して行われ、たくさんの方の研究者・関係者によるためめ工夫と努力そして諦めな

い持続力が大きな力を持つというお話しに、多くの参加者から素晴らしい講演だったとの感想をいただきました。

午後のスタートでは、仙台育英学園高等学校チアリーディング部による演舞が披露され、澁刺としたパフォーマンスに参加者から大きな拍手が贈られました。その後の研究協議では、「個々の力を生かすPTA活動とは」というテーマで各県代表による発表が行われ、本県からは名取北高校の佐藤美香会長が発表者として登壇し、「地域とつながり子どもたちと歩むPTA活動」コロナ

禍からの再出発・新たな取り組み」というテーマで発表を行いました。最後の閉会行事では、次年度開催となる秋田県からの挨拶があり、観光キャラクターとともに「来年は秋田でお待ちしております」との文字を掲げて来県アピールが行われ、次年度の再会を期して大会の幕を閉じました。



▶大河原産業高校ギター部



▶基調講演 川口淳一郎氏



▶仙台育英学園高校チアリーディング部



▶研究協議

地区トピックス

関東地区

埼玉県高等学校 PTA 連合会

第71回関東地区高等学校

PTA 連合会大会「埼玉大会」報告

7月11日(金)・12日

(土)、大宮ソニックス
ティにおいて標記大会を
開催いたしました。今夏
の記録的猛暑のなか、埼
玉大会2日間だけは最高
気温28℃という快適な天
候に恵まれ、関東地区会
員2000名が参加する
盛大な大会となりました。
本大会では、従来の
大会運営を参考にしなが
らも、コンパクトな運営
改善により、参加者およ
び協力員の負担軽減を図
る大会運営を模索してま
いりました。

主な改善点は以下の通
りです。

①参加者への昼食弁当
配付を廃し、参加費を値
下げしました。受付・ゴ
ミ回収等の業務軽減、参
加費軽減のほか、食品ロ
ス・食中毒の懸念排除、
ゴミ削減にも効果的でし
た。②案内業務は会場周
辺に限定し、駅からの案
内は廃止しました。③ご

来賓数を精査し、来賓受
付・誘導業務を軽減しま
した。④大会式典次第を
スリム化し、式典時間を
短縮しました。⑤大会前
日準備はアルバイト等を
活用し、PTA役員の負
担を軽減しました。⑥協
力員ユニフォームは「ビ
ブス」にしました。サイ
ズ合わせ業務削減のほ
か、大会後も各校PTA
活動での活用を期待して
います。⑦分科会チーム
を柔軟化し、各校独自の
視点での実践発表を可能
にしました。⑧約16ヶ月
の準備期間に開催した実
行委員会の開催回数を、
例年の会議数+1回に抑
えました。

また、より具体的な参
加意識をもって大会に臨
んでいたため、大会
テーマを「対話を通し明
日を拓くPTA」ポ
ジティブに「対話を通し
重ね」明日を拓く」と
しました。大会では、

「対話的学び」の重要性
を再認識する以下の3つ
の企画を実施しました。

まず、第5分科会では
「防災とPTA」に焦点
をあて、講義『災害時、
避難所となる学校で起き
ること』(講師・石巻西
高等学校 元校長 齋藤
幸男氏)を行いました。

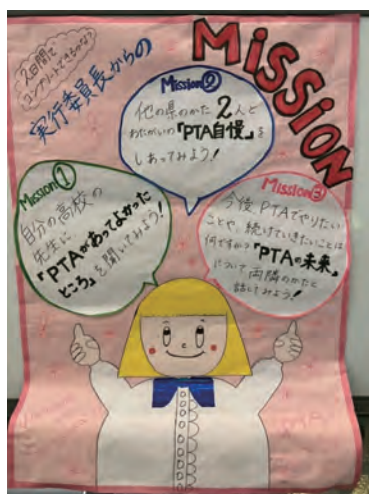
生徒・教職員・保護者・
地域が、日常的に考え対
話を重ねておくべき多く
の点を示唆していただき、
大変好評でした。

次に、記念講演では『対
話を終わらせないため
に』をテーマに、芥川賞
受賞作家 九段理江氏に
ご講演いただきました。
受賞作はAIを活用した
ことでも話題となりまし
たが、AIとの対話も含め
様々な視点からお話を
いただきました。

さらに、実行委員長自
作のポスター「大会実行
委員長からの MISSION」
が各会場に掲示されまし

た。「先生に『PTAが
あつてよかったこと』を
聞いてみよう」「他県
の方とお互いの『PTA
自慢』してみよう」「今
後PTAでやりたいこと
と、続けたいことなど
『PTAの未来』につい
て両隣の方と話そう」の
3つのミッションを掲
げ、参加者に対話を促す
よう呼びかけられ、大会
テーマをより具体的に感
じていただくことができ
たと思います。

大会中は、参加者の皆
さまから多くの温かいお
言葉を頂戴し、主管県の
埼玉県連スタッフ一同、
心から感謝申し上げます。
本大会における情報
共有や交流等を通して、
各校PTA活動がますます
充実し、「学校教育の
充実の支援」と「生徒の
安全環境の整備」がま
すます深まることを祈念
しています。



『3つのミッション』自作ポスター



大会を華やかに彩る大宮高校音楽部



第5分科会「防災とPTA」講義

地区トピックス

北信越地区

新潟県高等学校PTA連合会

地域や学校の特性を生かした

PTA活動について（新潟県）

新潟県高等学校PTA連合会には、県内公立私立94校が加盟しています。各校それぞれが工夫した取組を行っています。今回は、その中から4校の活動の取組を紹介します。

1 県立柏崎常盤高等学校PTA【ビーチ・クリーン活動】

令和5年度から地元の海岸を清掃し、SNSをとおりて柏崎の海を県内外の人々にアピールするとともに、海岸清掃をとおして、環境問題や自身の進路などの意識を高めることを目的にビーチ・クリーン活動を実施しています。

令和7年度は、7月12日（土）午前8時から生徒、保護者、職員等約90人が参加して、柏崎中央海水浴場を清掃しました。天候に恵まれ、1時間程度の活動でしたが、立木を含め多数のゴミを回収しました。汗をかきながらの充実した表情で、生徒と保護者、職員が活動に取り組みました。PTA主催のこの活動を継続し、柏崎の美しい海岸を維持していきたいと思っています。

みんなで頑張りました



2 県立新津工業高等学校PTA【飛翔祭（文化祭）への出店】

毎年10月に行われる飛翔祭では、大勢のPTAが協力して、飛翔鍋（大きな寸胴で作る豚汁）の調理とおにぎりの仕入れ販売を行います。おにぎりも以前は調理していましたが、



したが、感染症予防と負担軽減のため数年前から仕入れ販売としました。調理室では食品を提供する3年生のクラスと一緒にするため、自然と会話も増えます。飛翔鍋の具材の一部は後援会の農家さんの畑に収穫に行ったりもしています。

す。その他、事前の買い出しや当日の朝早くからの調理等大変さもありますが、生徒をはじめ来校者の皆様から好評で、完売した時の達成感と充実感を共有できることはPTA活動ならではの感想です。

販売の様子



3 県立新潟江南高等学校PTA【生徒の豊かな心の育成のために】

進路指導資料の購入や進学補習・講演会費用の補助などを通し、生徒の進路実現を支えるとともに、PTAとして高校の体育祭や文化祭など学校行事に参加したり、部活動を支えたりといった活動を行っています。本校では「青葉祭」と呼ばれる体育祭では、ここ数年の試みとしてPTAから

生徒に記念品を贈呈しています。生徒が学校行事を通して仲間との絆を深めたり、集団を率いたりする経験を間近で見ることができるとは、親として子どもの成長を確認できる貴重で喜ばしい経験です。



▶PTAからの賞品を手に仲を深める江南生

4 県立長岡大手高等学校PTA【「済美」の精神を涵養するPTA活動】

校訓「済美（せいび）」には、「一人の役に立ち、社会に貢献する美しさを身につける」という意味が込められており、その理念は今も脈々と受け継がれています。

様々なPTA活動の中でも、学校のICT環境の整備支援にも積極的に

貢献しています。ICT環境の整備、プロジェクトの導入などICT活用授業を支援し、デジタル化が進む教育現場を支えています。特に、県外企業や海外学校とのリモート交流など、新しい学びの形を後押ししています。このような貢献が評価され、令和3年（2021年）には、文部科学大臣より「優良PTA」として表彰されました。

PTAから寄贈（27台）



地区トピックス

東海地区

静岡県公立高等学校PTA連合会

令和7年度東海地区

高等学校PTA連合会「静岡大会」

東海地区高等学校PTA連合会では、地区大会当日の午前に各県役員による総会を開き、午後から大会を実施していきます。令和7年度の「静岡大会」は、6月27日（金）に静岡市清水文化会館マリナート大ホールで開催され、東海4県から858名が参加しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、令和3年度の静岡大会は直前に中止となっていました。今回は9年ぶりの開催となりました。県高

P連本部役員と静岡地区・清水地区の公立高校PTA会員29名が協力し、大会の準備と運営にあたりました。

開会式では、東海地区高P連小野喜照副会長（三重県会長）の開会挨拶の後、住吉明会長（静岡県会長）と全国高P連の田名部智之会長が主催者挨拶を行い、来賓として静岡県教育委員会教育長の池上重弘氏、静岡県高等学校長協会会長の織田敦氏からご祝辞をいただきました。

続いて、東海地区の2

校による研究協議が行われました。まず静岡県立浜松特別支援学校PTAが「サステナブルなPTA活動を目指して」をテーマに発表しました。

学校の教育目標である「共生社会の中で、自分らしく力強く生きる人を育てる」や、高等部での自立支援を目的とした作業学習の重要性が紹介されました。一方で、多様な学校行事による役員負担の軽減が長年の課題であったため、保護者が無理なく参加できる取り組みとして、令和5年度か

らは「応援隊活動」を開始し自主的に参加してくれる会員にカードを配ったり、Instagramの活用やGoogleを使った情報共有などに取り組んだり、様々な工夫が報告されました。

次に、岐阜県の学校法人松翠学園岐阜女子高等学校育友会が、「本校の育友会活動」と題して発表を行いました。学校の沿革や教育の特徴を説明した後、文化部による実演会、体育祭での飲料水配布、文化祭のバザー、エコキャップ運動など、年間を通して多彩な活動に取り組んでいることが紹介されました。また、活動周知や連絡の迅速化を図るため、デジタル

ツールを活用している現状と今後の課題などが報告されました。両校の発表からは、現代のPTA活動がデジタル技術を取り入れて進化している様子が伺えました。

その後、金沢大学融

合研究域 融合科学系の金間大介教授による講演が行われました。演題は「素直でまじめで優秀、でも主体性がないーそんな『いい子症候群の若者たち』と共に前へ進むためにー」です。金間教授は、多様なデータや自身の体験を交え、現代の若者の特徴として、「自分の意見を言わない」「目立ちたくない」「平均的でいたい」などの傾向を紹介し、加えて、「安定志向の強さ」、「職場がゆるくて不安だから退職するケース」、「タイパ重視」、「横並び意識の強さ」など、若者が抱いている様々な思いや価値観を紹介してくれました。さらにこうした言動の背景には、日本社会の人口動態、経済、教育環境などの在り方変化があり、若者にとって

も「失敗してもよい」環境が不足しているのではと講師は指摘し、若者だけの問題ではなく、大人世代もすっかり自分たちの社会の特徴を捉えるよう強調されました。講演後実施したアンケートでは、参加者の93.5%が講演時間を「適切」または「短い」と回答し、「参考になった」が「まあまあ」を含めて100%に達しました。参加者からは「現在の若者理解に役立った」、「親自身も主体性を持つ必要性を痛感した」、「子を作っているのは親だ」と改めて考えさせられた、「今後の親子関係の参考にしたい」、「家に帰ってから家族と講演内容をシェアした」などの感想が寄せられ、もっと時間が欲しかったという意見が多く大変好評でした。

最後に東海地区高P連の鳥居春美副会長（愛知県会長）が閉会挨拶を行い、次年度は愛知県で東海地区大会を開催することが報告され、静岡大会は終了しました。

大会に臨む主催者



研究協議（両校発表者）



講演に聞き入る参加者



第50回近畿地区高等学校PTA連合会大会兵庫大会が、世界文化遺産である姫路市で令和7年7月13日（日）、アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）を会場に、近畿各府県市から700名を超える会員の現地参加と、56校のオンライン参加により盛大に開催されました。

「これからの時代、思いやり、支えあい、互いに感謝」を大会テーマに、知りたいことが一瞬



式典全景

で検索できる今の時代の生徒たちが大人になる頃には、今以上に先行き不透明で将来の予測が困難な時代「VUCA（ブリーカ）時代であるかもしれない。その時代に、仕事をし、生活をしていくためには、人として相手を思いやり、また支えあい、互いに感謝の気持ちを持つことにより、乗り越えていけると思いますが、PTAにおきましても、これからの時代を担っていく生徒たちが生きていく時代に向けて、どのように伝えていけるかを考えていかなければと思います。兵庫大会では、あらためて皆様と語り合う大会にしたいと思ひ開催しました。

オープニングでは兵庫県立姫路東高等学校、邦楽部のみなさんによる箏曲の演奏を1曲、そして姫路東高校さんの演奏をBGMに県立農

業高等学校 園芸科フワワーアレンジメント班の生徒さんと県立北条高等学校 華道部の生徒さんによる「花いけコラボレーション」をご披露し、各地の皆さまをお迎えしました。

中川麻由大会実行委員長より未来の見えない時代にこそ、過去の歴史が示す通り、困難に直面しても柔軟に対応し、支え合いながら乗り越える力を育むことの重要性和、保護者や教育関係者は、今こそ子供たちをどのよ



兵庫県立姫路東高等学校 邦楽部

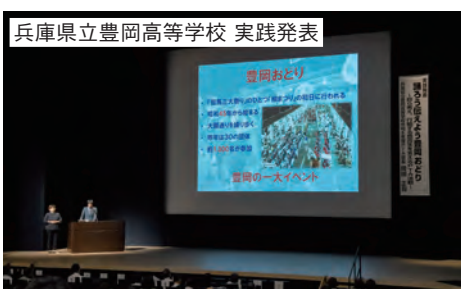


3校によるコラボ演奏

うに導き、育むかを深く考える必要がある。という思いのこもった挨拶のあと、西岡豊全国高P連専務理事、藤原俊平兵庫県教育長、清元秀泰姫路市長の祝辞をいただきました。

続いて、令和6年度近畿地区高等学校広報紙コンクール表彰、功労者感謝状授与と開会行事が華やかに行われました。

休憩をはさみ、県立福岡高等学校・県立播磨福岡高等学校ギター・マンダリン部と県立夢前高校地域アクティブ類型の明神太鼓とのコラボ演奏を行い、繊細なマンドリン合奏の音色と力強い太鼓の響きで「ゆめさき清流



兵庫県立豊岡高等学校 実践発表

登り打ち」という曲で地元夢前川の穏やかな流れと、雷など天候の変化により流れが激しくなっていく様子太鼓を使って力強く表現され、川の流る変化を楽しんでいたました。

記念講演の前に、令和6年度兵庫県立豊岡高等学校PTA岡田正司会長から「踊ろう伝えよう豊岡おどり」く自ら考え、行動する豊高生を支えるPTA活動」と題して、実践発表があり、新たな時代に応じたPTA活動の運営と工夫という点でとても有意義な発表をいただきました。

記念講演では、「ヤル気と集中力を高める知恵



記念講演 川谷潤太 様

とコツ」く家庭でできるメンタル強化法」と題して(株)脳レボ代表取締役(二社)アスリートサポート理事の川谷潤太様から家庭でできるメンタル強化法をお話しいただきました。

「主体性」とは「言われた通りに…と受け身で動くのではなく、目標や目的(ゴール)に合わせて自分の意思で動くこと」、人は暴力や圧力(威圧感) 不安感の煽りや統制ではなく、「希望」が生まれたときこそ、本当に意味での「心」が動き「主体的」な行動が始まること。そして、「主体的」な行動によって、人は大きく成長するこ

地区トピックス

近畿地区

兵庫県公立高等学校PTA連合会

第50回近畿地区高等学校

PTA連合会大会兵庫大会の報告



開会行事

第67回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会は7月11日（金）に松江市くびきメッセにおいて地区内の9県より約1,100人が参加し開催されました。

開会行事では最初に島根県立松江北高校の安部沙彩さんによる国歌独唱が行われ、その

後、原完次実行委員会委員長、伊福聡全国高P連副会長、野津建二島根県教育委員会教育長が主催者および共催者を代表して挨拶を述べました。その後、来賓の石原恵利子島根県副知事、および藤原亮彦松江市副市長よりご祝辞をいただきました。

原完次委員長は挨拶の中で、PTAは単なるボランティア団体ではないと強調しました。PTAが社会教育に関する事業を通じて地域文化や社会福祉の増進へと貢献する「自主的な社会教育団体」であると定義した上で、「子供たちのために何がしたいか」という共通の想いのもと、多様な参加者が互いの知識や技術を持ち



案内の様子

寄り、共に考え、学び、行動する姿勢こそが最も大切な役割だと訴えました。

記念講演は島根県を拠点に活動する日本屈指のメカニックデザイナー山根公利氏を講師に招き、「ITから生まれる人の幸せとは何か？」をテーマに行われました。その中で日本のコンテンツ産業の急成長を背景にIT全盛時代における自身のキャリアと幸福論を展開されました。山根氏はSF映画が描くディストピア的な未来とは一線を画し、人類はITと共に進化し続けるという可能性に言及されまし

た。企画が画一化しつつあった東京のアニメ業界を離れ、リモートワークが可能な故郷の島根に2000年にUターンし、島根での生活はクリエイターとしての本質的な部分を見つめ直すきっかけとなりました。特に「本物の機械に触れる」体験を通じて、高校時代に培った構造や素材に関する知識と実物の体感が結びつきました。これが「実在感のある」緻密なデザインを生み出す原動力となり、その個性的なデザインは国内外で高く評価されています。自身の経験から、クリエイターには苦勞を厭わないほど

地区トピックス

中国・四国地区

「神話の郷に集う縁」

さと

〜新時代を生き抜く力を〜

島根県高等学校PTA連合会

とが出来る。
一人ひとりによってそのきっかけは様々であるが「希望」を与えられるのは「人」ではないこと。どんな人でも、誰しも驚くほどの能力が隠されていて、それを引き出すための第一歩は、暴力・圧力・不安感の煽りや統制でなく「希望」である

こと。さあみんな「希望の光り」を放ちましょう。とご講演いただきました。

閉会式では、松本正直大会実行副委員長から大会宣言が発表され、全会一致で採択を受けた後、次年度開催県の福田雄介和歌山大会実行委員長の「近畿は！ひとつ！和

歌山市でお目にかかりましょう。」の言葉で大会が締めくくられました。

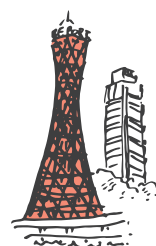
そして、安田明彦大会実行副委員長から閉会あいさつの後、それぞれの想いを胸に、参加者は会場を後にされました。

会場のアクリエひめじでは、オーブニングの箏曲の演奏が始まる前か

ら、兵庫県の農水産関係高校の実習生産品がPTA会員や生徒たちによって販売されました。多くの来場者にお買い上げいただき、大変喜ばれました。また、大会参加申込み、入場については、前回の京都大会を参考にしておオンライン、ネットバンキング振込、2次元

バーコード発行で事務作業を大きく軽減する方式をとり、コンパクトな大会運営を実現することができました。

コロナ禍以降、ネガティブな状況下、今後のPTA活動について考えるきっかけとなる大会をめざしましたが、参加いただいた会員の皆さまと



一堂に会する喜びと、同じ思いを志す決意を強く感じる中、無事終了いたしました。



記念講演 山根公利氏

の「好き」と情熱が必要だと強調。AI技術について、AIが高度な絵を描けるようになっても著作権や信頼性の問題から全てを代替するには至っていないと指摘。クリエイターの真価はその人の育った環境や文化から来る個性と想像力にあり、これがAI時代における差別化要因になると説かれました。情報過多な現代においてITやAIとは「ほどよく利用して付き合う」ことが重要であると提言。情報が少ないからこそ育まれる「物思いにふける時間」と「想像力」そしてSNSに依存せず「現実の身近な幸せ」を大切にするのがIT全盛時代を生き抜く真の幸福感につながると締めくくられました。

昼食時には島根県の高校生の活動にPTA会員が理解を深める機会とすることを目的に「高校生の物産販売」が行われました。島根県立松江工業高校からは「イライラ棒ミニ(キット)」島根県立松江農林高校からは「イチゴジャム、マーマレードジャム等」、島根県立江津工業高校からは「デジファブ作品の小物等」、島根県立浜田水産高校からは「サバ味付け缶詰・マグロ油漬け缶詰等」が出品され、全て完売となりました。参加者からは「自分たちの生み出したものを誇りを持って販売されている姿に同じ年齢の子を持つ親としてとても嬉しくなりました。」という感想がありました。

午後からは島根県の3校の高校生による活動発表が行われました。島根県立浜田商業高校郷土芸能部の石見神楽「大蛇」、松江市立皆美が丘女子高校ダンス部の「MGD Dance Performance」、島根県立出雲農林高校出農太鼓部の「疾風迅雷・新七兵衛太鼓」の発表が行われ、迫力満点で生き生きとした演奏やパフォーマンスをしていく高校生の姿に観客は圧倒された様子でした。参加者の感想には「どの学校の生徒も一生懸命で心打たれました。子供たちが何かに打ち込む姿は勇気をもらえます」とありました。

その後、3つの高校の代表者により、各校のPTA活動について発表が行われました。岡山県からは金光学園中学・高校やつなみ保護者会藤井秀和会長より「『子とともにも育つ』」金光学園やつなみ保護者会の歩み、愛媛県からは愛媛県立今治東中等教育学校PTAピアース恵利会長より「生徒の夢を支えるPTAの役割」教職員との連携による6年間の教育支援、島根県からは島根県立隠岐高校PTA鳥井登会長より「『人情の島が創る隠岐高校』」地域が育む高校魅力化」と題して発表がありました。その後、質疑応答が行われ、活発な意見交換が行われました。参加者からは「活動者同士のコラボレーションや子供の学びを様々な形で支援する工夫された意欲的な取り組みがなされており、とても参考になった」という感想があり、大変有意義な研究協議となりました。

閉会行事では、来年の開催地である香川県のPRビデオが上映され、香川県高P連の杉本勝利会長が次期大会への参加を呼びかけました。続いて、原完次委員長が閉会の挨拶を行い、その中で「大会参加者が今回の学びとネットワークを各単Pや家庭、職場へと活かして、来年の香川大会に向けて連携を強化して行きましょう」と呼びかけ、大会が終了しました。

は、手のひらに「感謝」と書いて手を振る参加者グループも見受けられました。本大会は、PTA役員や教職員が一堂に会し、子どもたちの未来のために何ができるのかを改めて深く考える貴重な機会となりました。

金光学園中学・高等学校
やつなみ保護者の会の発表今治東中等教育学校
PTAの発表

隠岐高校PTAの発表

地区トピックス

九州地区

佐賀県高等学校PTA連合会

『語やびら』 沖縄大会

『語やびら』かたろう 未来を担う子ども達のために

第69回九州地区高等学校PTA連合会大会『語やびら』沖縄大会は、

6月19日(木)・20日(金)の2日間、那覇市内のホテルと宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで

開催されました。2日間とも天気に恵まれ、沖縄らしい汗ばむ陽気となりました。

第1日目は、ホテルコレクティブにおいて、九州高P連4委員会、理事会・総会が開催されました。

4委員会(総務・健全育成・進路対策・調査広報)では、前年度からの引継ぎ事項の確認をし、本年度は、以下のことについて協議、取組むこととしました。

〈総務委員会〉

生徒数減少や授業料無償化に伴う予算、会則の見直しについて

〈健全育成委員会〉

SNS利用の問題点の

検証、保護者への問題点(マナー)の周知、時代

が変化していく中で、新たなトラブルの検証について

〈進路対策委員会〉

検索ワード集の作成。会員が活用できるような、その情報を伝える方法や工夫について

〈調査広報委員会〉

九州高P連広報紙コンクールの審査基準の見直しについて

4委員会は、研究や協議を通して、各県連はもとより、各単P活動の活性化を目指し、情報提供・発信を行います。

第2日目は、沖縄コンベンションセンターにおいて、3つの分科会、アトラクション、全体会・表彰式、記念講演が行われました。

第1分科会「青少年の健全育成とPTA活動」

生徒・学校・地域に合わせ、工夫を凝らした活

動報告が4県よりありました。

第2分科会「進路指導とPTA活動」

保護者が、子どもとともに、新しい時代を理解し、大人として保護者として学校とともに子どもたちをどう支えるかの実践発表が4県からありました。

第3分科会「地域の将来を担う生徒の支援活動」

「高校生と歩んだ12年のまちづくり・人づくり」をテーマに実践事例報告がありました。高校生が中心となり、その活動を地域や保護者が支援し、様々な活動が行われており、令和5年度には、全国高校生SBP交流フェアにおいて「文部科学大臣賞」受賞し、活動がますます盛んとなっていますとのことです。高校生を中心とした町おこしプロジェクトの現状や課題の報告、地域、保護

者が高校生とともにどのように課題の解決に繋げていくかを学びました。



アトラクション

〈沖縄県立前原高等学校空手道部〉



『日本一』を目指すとともに、「応援される空手道部」をスローガンに日々練習に励んでいる前原高校空手道部の迫力ある演武が披露され、会場も緊張感のある雰囲気にも包まれました。

全体会

全体会では、九高P連杉本龍会長の挨拶から始まり、全国高P連田名部会長、沖縄県知事、宜野湾市長から挨拶をいただきました。また、九高P連や各県のPTA活動に尽力された個人や団体に対し、表彰が行われました。



記念講演

記念講演では、琉球大学教授の上間陽子先生から「沖縄の貧困とトラウマ」10代のママたちの施設おにわの事例から」という演題で講演がありました。子どもの



権利を守り、トラウマケアを実践するための具体的な方法と課題を提示するものであり、私たちに深い問いを投げかける内容でした。

閉会式

閉会式では、沖縄県杉本会長から次期開催県の福岡県の榎本会長に大会旗を引き継がれました。



第75回全国高等学校PTA連合会大会 2026大分大会のご案内



【大会テーマ】

♪ 湯ごころ 真ごころ 親ごころ
～ 輝く未来を切り開け ～



【大会趣旨】

1947年（S22年）3月、文部省がPTA結成の手引書を作成し、全国知事あてに次官名で送達されて、戦後のPTAはスタートしました。それから79年、社会は大きく変化し続けています。それは、私たちが高校生のころと今を比べてみると一目瞭然です。

社会に存在するあらゆる仕組みは、その変化に対応した進化ができれば消えていく運命にあることは理解いただけることと思います。

では、PTA活動はどうでしょう。

単Pにしろ、地区組織にしろ、都道府県にしろ、全国組織にしろ、大きな社会変化に合わせた進化ができていのでしょうか。そしてその進化は、私たちの活動の主たる対象である高校生たちに受け入れられ、支持されているのでしょうか。

高校生たちは、IT技術の進化によるドラスティックな産業構造、地球沸騰化による突発的な水害や地震などの自然災害、新型コロナウイルスなどの感染症の世界的流行など、不確実で複雑・不透明で曖昧な「VUCA時代」の中で、今も、これからも生き抜いていきます。

その高校生たちを、あらゆる面でサポートすることを目的としているPTAが高校生の取り巻く環境を理解し、高校生の求めるところを知ることが必須ではないでしょうか。

そういった観点から、新しいPTA活動の在り方を、この大会を通して考えていただけたらと思います。

「湯ごころ 真ごころ 親ごころ」～輝く未来を切り開け～のテーマのもとに開催される大分大会では、私たち保護者が、温かい心と真心をもって、希望の持てる未来社会へのビジョンを持ち主体的に行動し、家庭や学校、地域と一体になって、子どもたちの未来を切り開くために教育改革を進める学校を後押しできるような、皆様方と一緒に様々な角度から考えていきたいと考えます。新時代の教育とは、まず私たち保護者が始めることであり、それが地域社会、わが国そして世界の発展につながるものと信じます。

ここ大分の地で、全国のPTA会員が一堂に会し、輝く未来を切り開くため、共に一歩前に踏み出しましょう。

【大会日程】

8月20日（木）大会1日目		
分科会（開会行事・記念講演）		
受付	① 受付	11:30～13:30
	② アトラクション	13:00～
分科会	③ 開会行事	13:30～13:50
	④ 基調講演	14:00～15:00
	⑤ パネルディスカッション	15:15～16:30
	⑥ 閉会行事	16:30～

第1分科会	PTA活動・教育	「PTAの役割と未来」～今こそ、考えてみようPTA活動の意義～	別府国際コンベンションセンター（ビーコンプラザ）
第2分科会	進路指導	「大学入試と非認知能力」～変化の激しい時代にどう対応するか～	
第3分科会	国際教育	「ダイバーシティの力」～多様性の中ではぐくむ地域・人材・未来～	立命館アジア太平洋大学（APU）
第4分科会	防災教育	「災害から護る力」～自分・家族・地域を護る防災教育～	J:COM ホルトホール大分
第5分科会	生徒指導・教育相談	「不登校は心のメンテナンス！」～大人が子どもたちから謙虚に学ぶ、傾聴～	iichiko総合文化センター

8月21日（金）大会2日目		
全体会（開会式・記念講演・閉会式）		
受付	① 受付	8:00～
	② アトラクション	9:00～
全体会	③ 開会式、表彰式	9:30～10:30
	④ 記念講演 講師 内川 聖一 演題 「夢が導く諦めない気持ち」	10:40～11:50
	⑤ 閉会式	12:00～12:30

【ホームページへのリンク】

<https://pta2026-oita.jp/> または



【大会ポスター】



全国高等学校 PTA 連合会賠償責任補償制度のお知らせ

あなたの学校も加入しませんか？ 全国加盟高校の 2 校に 1 校が加入しています。

掛金

年間400円（保険料391円＋制度維持費9円）×**生徒数**

※補償開始日が令和 7 年 4 月 1 日の場合。 補償期間中の加入については、月ごとに掛け金が減額となります。

補償期間

令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 4 月 1 日

補償の範囲と支払済高額事故事例

<生徒もしくはPTAに過失があった場合が対象となります>

補償の範囲		支払限度額			免責金額（自己負担額）		事故発生 件数割合
1．生徒の行為に起因する賠償責任 （生徒個人およびその親権者等の 法定監督義務者）		対人・対物 合算	1 事故につき	1 億円	1 事故につき	5 千円	99%超
2．PTA活動の遂行に起因する賠償責任 （PTAの賠償責任）		対人・対物			対人・対物 それぞれ 1 事故につき	1 千円	1 %未満
		対人	1 名につき	5 千万円			
			1 事故につき	5 億円			
		対物	1 事故につき	5 千万円			
		保管物	加害者1 名につき	10 万円			
		保険期間中	500 万円	1 事故につき	5 千円		

年度	支払金額	事 故 内 容
平成19年度	8,791 万円	無灯火の自転車で歩道を走行中、後ろから人に追突し転倒させ、脳挫傷により要介護状態となり、死亡させた。【過去最高支払金額】
平成24年度	2,246 万円	プライベートで外出中、 <u>自転車同士</u> の接触事故。相手方脳挫傷となり、5 か月後に死亡させた。
令和元年度	4,754 万円	自転車走行中、対向の歩行者を見て右に避けたところ相手歩行者も同じ方向に避け衝突し、相手方死亡。

詳しくは、「全国高 P 連賠償責任補償制度」手引き・パンフレット・チラシをご覧ください。
(各学校へ 1 月下旬にお送りしています。)

●制度についてのお問い合わせ窓口

一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会
東京都千代田区神田佐久間町 2-1
奥田ビル 301 号
TEL.03-5835-5711

●引受保険会社

引受幹事保険会社 東京海上日動火災保険株式会社
(担当：公済第二部 文教公済室)
共同引受保険会社 AIG 損害保険株式会社
三井住友海上火災保険株式会社
損害保険ジャパン株式会社

TEL.0120-889-980

AIG AIG 損保

一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会後援
AIG 高校生外交官プログラム
(参加費無料)
<https://www.highschooldiplomats.org>



「育てたいのは、
子どもたちの未来。」
私たちはAIG高校生外交官プログラムを協賛しています。

AIG 損害保険株式会社

MS&AD 三井住友海上

安心のゴールキーパーでありたい。



**クルマの
保険**

**すまいの
保険**

**ケガの
保険**

いついかなる時も、
いちばんそばに。



東京海上日動

特設サイト
公開中！
<https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/itsu-ichi/>

SOMPO

その声を安心に変えて。

補償範囲を見直してほしいというリクエスト。
規約がわかりづらいといった、ご指摘。
毎日、お客さま一人ひとりの声に全力で耳を傾ける。
毎日、いただいた声を元に保険を見直し続ける。
そうやって、私たちが向き合っているのは、
目の前のお客さまの安心だけではなく、
未来のお客さまの安心でもある。
これからも、ずっと。
お客さまの声に聞き合い、進化をつづけていく。



▼特設サイトはこちら



損保ジャパン

こちらのご案内は P T A 賠償責任保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容は「全高 P 連賠償責任補償制度」のチラシ・パンフレットをご覧ください。詳細は各学校へお渡ししてあります「全高 P 連賠償責任補償制度」の手引き記載の保険約款によりますが、ご不明の点がありましたら引受幹事保険会社までお問い合わせください。